

実績・実施例

20KW チップボイラ実証試験
岩手県沢内村（雪国文化研究所）の概要



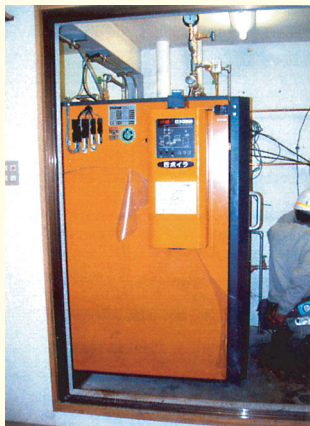
煙突とサイロ



チップのサイロへの積み込み



チップのサイロへの投入



設置されたボイラ

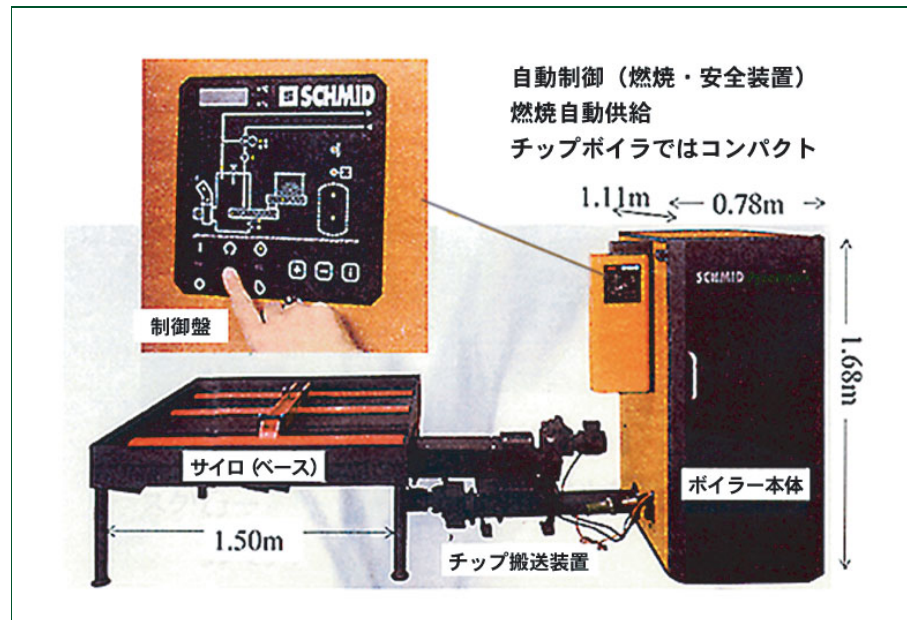


燃焼炉



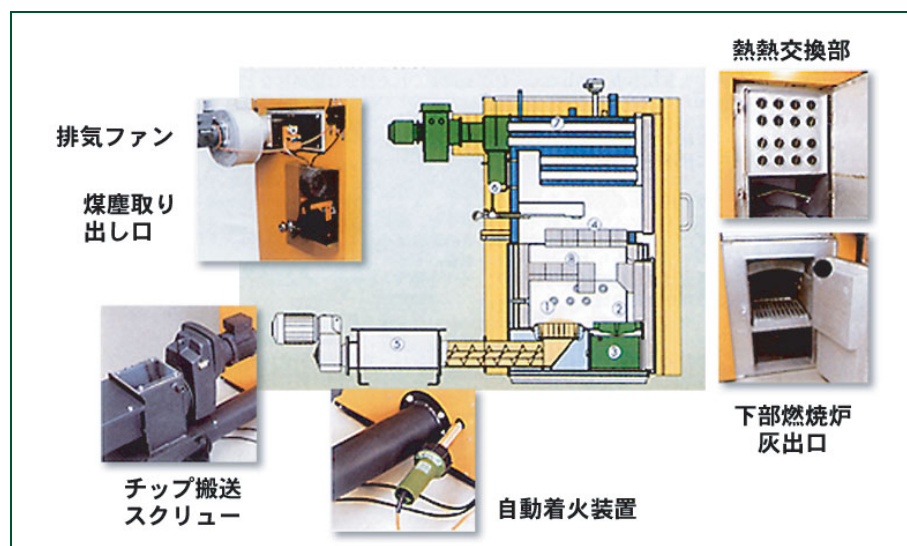
室内温水パネル

◆チップボイラの概要



岩手県林業技術センター 資料より

◆チップボイラの構造



岩手県林業技術センター 資料より

◆灰の発生

平成 14 年 3 月から 4 月にかけてチップを燃焼し、その結果、灰の発生量は極めてわずかでした。灰は肥料効果が期待できます。



岩手県林業技術センター 資料より

■岩手日報 2002年3月2日掲載記事

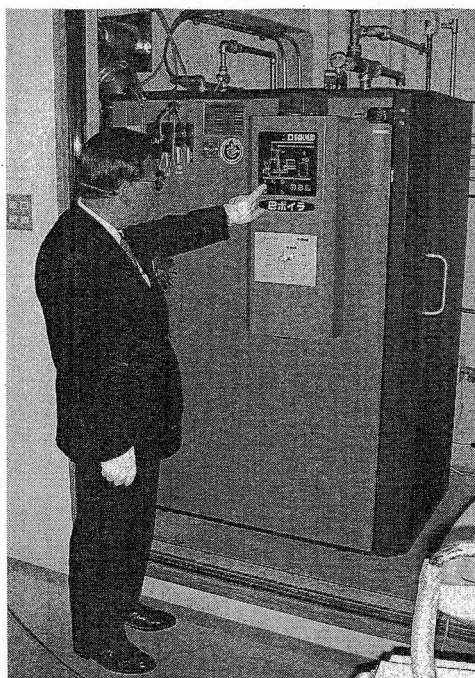
木質バイオマス利用の核に

チップボイラー始動

日本で
初導入 沢内村が実証試験

沢内村が日本で初めて導入したスイス製チップボイラーの火入れ式は一日、設置施設の村雪国文化研究所で行われた。木質バイオマス（生物資源）エネルギーを活用しての温水暖房用に導入したが、燃料に固形のペレットではなく、間伐材のチップを利用するのが特徴。一年間にわたって燃焼効率などの実証試験を行い、公共施設などへの本格導入を目指す。

火入れ式には加藤昭男村長、阿部不顕北上地方振興局長らが出席。加藤村長は「間伐促進が期待でき、森林保全や地球温暖化の防止にもつながる。試験研究機関の協力



日本初導入のスイス製チップボイラーのスイッチを押す加藤昭男沢内村長。村雪国文化研究所

を得て試験を進め、沢内を雪水エネルギーを含む『クリーンエネルギーの里にしたい』と述べ、ボイラーのスイッチを入れた。

ボイラーは家庭用で出力二十路。外部設置の五立方メートル燃料サイロからチップが供給される。

チップ供給や燃焼、温度管理などすべて自動制御で、パソコンを通じて監視もできる。沸かした水は同研究所内の各部屋に設置したパネルヒーター十二台に流して暖房に利用する。

実証試験は県林業、工業技術センターの協力を得て進め、チップ含水率の違いによる燃焼効率や針葉樹、広葉樹など樹種による燃焼性能の差などを調べる。

同村の木質バイオマス実証試験は、村予算三十万円で同振興局の市町村総合補助金三十万円で行われるが、県林業技術センターも二〇〇二年度に六百路の大型チップボイラーを導入する計画があり、沢内村の試みと合わせて多様な形でチップボイラー普及の可能性を探る。